



2015

乙未

お大師さまの真言宗です...



平成 27 年 7 月 1 日

真言宗豊山派

田宮山 薬師寺

住 職 市川成寛

副住職 市川慈寛

茨城県牛久市田宮町 248

電話 029-872-5959 (代)

FAX 029-872-6125

菩提寺の夏行事
お施餓鬼とお盆の行事です

八月十二日、今年は、

江戸家子猫さんが

(特別出演です!)

ごあいさつ

今年もお施餓鬼やお盆の時節となりました。

現代では核家族が進んで、それぞれの家族の人数は減少したものの、一軒の家があれば必ず、その家独特の家風というものがございませう。

そして、真の家風というものは、その奥にご先祖様からの「命のつながり」という精神的支柱があるのです。たとえ新宅(分家)であっても、源となるご先祖様は必ずおられます。

あなたの「命」は、正にそうしたご先祖様の命のつながりであり、その尊さに感謝する。それがお盆の意義であり、それを我が子や孫達に伝えることが、今を生きる私たちの大切な役目だと思っております。

今年もお元気に、ご来山の程ご案内を申し上げます。

合掌



プロフィール
・主な持ちネタ動物ものまね
・趣味動物園めぐり・写真・イラスト
・自己PR、各地の動物園を巡りながら、いろいろな動物の鳴き声を勉強する日々です。
ウグイス、カエル、秋の虫、江戸家伝説の茶はもろんのこと、サイ、カバ、キリン、シマウマなど、鳴き声はあまり知られていない動物のレパートリーも数多くあります。その日の高座でどんな動物が登場するか、それを楽しみに聞いていただけましたら嬉しいです。



二代目 江戸家子猫

お楽しみににお出かけください。

この日は多くの動物たちを引き連れて参上されます。

お馴染みの江戸家子猫師匠が奏でる小鳥たちの囀りは正に讚美歌にも似て、多くの心に響き渡ることでしょう。

江戸家猫八師匠の子供だから子猫さん、特別出演です!

特に今年は、ご縁ある諸動物たちにもご登場頂き、生命の讃歌を謳い上げて頂くこととなりました。

お馴染みの江戸家子猫師匠が奏でる小鳥たちの囀りは正に讚美歌にも似て、多くの心に響き渡ることでしょう。

江戸家猫八師匠の子供だから子猫さん、特別出演です!

八月十二日 お施餓鬼会

午後三時より始まります

お檀家さんがみんな集う

ご先祖様の供養です。

おせがきの法要は、こうして多くの檀信徒の皆様と一緒になり、無縁の霊へ知らないうちに御世話になっているほけさまにも感謝のご供養をするおつとめです。あわせて皆様が志す、ご先祖様にお塔婆を立ててご供養を致します。

此の時間、どこのお寺でも、大きな行事といえど第一に施餓鬼会があげられるほど、今では多くの檀信徒の参加によって盛大に行われています。

それは人の世界もほけさまの世界の様に、たがいにお施餓鬼がのこるおしえにもっともかなう行事だからです。

人間は、やもするとけだもの心になりがちですが、特に人間の良心を呼びさます祈りを行う日でもあります。



真夏の暑い盛りです。

多忙な現代人が万難を排してご列席。これぞ正しく慈悲と寛容の精神です。



施餓鬼会の開始は午後三時より

本年は住職の挨拶に引き続き

江戸家子猫さんが特別出演！

生きとし生ける諸動物の「生命の讃歌」が始まります。

年に一度の総供養

八月十三日 お盆の迎え

午後三時半にご集合ください

盆網 (ご先祖お迎えは蛇にのせて)

子供たちが主役です。

薬師寺のお盆は蛇祭りから始まります。

お檀家の子供さんや地域の子供会、小学生から幼稚園生まで、ご縁ある子供達が集って昔から行われている盆綱行事です。

本堂でおつとめの後、境内や墓地を練り歩き、ご先祖さまの御霊を龍の背にのせお迎えし、最後は本堂前に安置、集った人達とみんなでお盆の綱を営みます。梵鐘を撞きながら各家の迎え提灯にあかりを分け、ご先祖をお渡します。昔の名残りを伝える情緒ある風情にご家族みんなで参加下さい。



子供たちは、先ず本堂でおつとめを安全、学業成就、家内安全を祈願してみんな仲良く龍をかっきます。



水子洗淨供養



今年の洗淨供養は7月26日(日)午前9時より行います。何卒宜しくご協力賜りますよう御願いを申し上げます。

お檀家さんには、一人でも多くのお子さまをお連れになって、ご先祖さまをお迎えください。
(各家ではお迎えの提灯をご持参下さい。)

◎おやつとお土産を用意しました。



ホートケ、サーマー、ワータシマースーヨー…と



◎この時間、駐車場は行事のための規制されますのでお近くの方は徒歩にてご協力下さい。

お盆によせて



追善供養について

人は亡くなると「仏さま」と呼ばれます。しかし私たちは本当に「仏」になれるのでしょうか。

お葬式の時「身口意」、すなわち、からだとくちとこころの三業を懺悔して「仏」の位に入る儀式が行われるのですから、形の上では確かに「仏」になれる訳です。

しかし、実際のところ、身と口と意で一生悪業を撒き散らしてきた私たち凡夫が、死ぬことによってただちに「仏」になれる筈はないように思います。



▲念珠を繰って一心に故人の冥福を祈る

ところが、妙なもので、死んだ人が残した生前の悪い思い出も、月日が経つにつれて遺された人たちの脳裏から、だんだんと流れ去り、逆によい思い出の方が残るようになるものです。なるほど、死んで行かれた人たちは、すべて善い人「仏さま」になられるのかも知れません。

つい先だって、私の恩師であります先生の七回忌をつとめました。三回忌の時よりも更に先生が「善い人」に思えてなりませんでした。

このことは即ち、亡くなられた私たちの先祖は、間違いない「一歩一歩」と「仏」への階段を登り続けておられる証拠だと思えます。

たゆまず「仏」への階段を登っておられる先祖さまに、助けの舟というか、良いところを想いおこすなど、お手伝いの手を差し伸べることが遺された者、生きる者の努めであり、それがお盆の「追善供養」であろうと思えます。

臨終のための九つの用心

昔のお坊さまがお示しになった臨終のための、九つの用心についてお話ししましょう。

一つ、もし病氣療養の生活に入ったら、あせらず悲しまず、心をゆったりと保ちなさい。

二つ、命の終わりが近いことに気づいたら、必ずみ仏の世界に往生できることを信じ、念じて、身も心も仏さまにあずけなさい。



▲故人を偲んでご法事を

- 三つ、命を終えるというときは、この世から仏さまの世界に移り住むのだと思いなさい。
- 四つ、日ごろ信仰しているご尊さまをお迎えしておまつりしなさい。
- 五つ、今まで、知らず知らずのうちに犯していたであろう罪の数々を懺悔して、仏さまにお許しをいただきますなさい。
- 六つ、他の人々のために、でき得るかぎり、お返しをしておきなさい。
- 七つ、往生する仏の世界を思い描きなさい。
- 八つ、臨終のときは、仏さまをお迎えに来てくださることを信じなさい。
- 九つ、ご縁のあった人々に追善供養をしてくださるようお願いしなさい。

ご戒名、生前授与について

ひと昔以前にも、信仰深いご夫婦がより幸せな人生を祈念され、行われた「授戒会」です。勿論今もその意義には相違ありませんが、現代社会では核家族(少子化)が進み、多くの家庭でご夫婦二人、或いは単身となれる傾向が生まれ、もしもの時に少しでも安堵できる手立てとして、生前授与が行われています。お気軽にご相談ください。



お寺の活動 ホットニュース 寺子屋を拠点に活動開始

「笑顔で、礼儀正しく」が基本姿勢です。

副任職(慈寛)が理事長を務めるNPO法人「ミラクルスポーツ・キングダム」、小中学生のチアダンスチームが、五年連続で全国大会に出場、今年は二チームが入賞しました。

これは、牛久、つくば、取手、龍ヶ崎など四市の小学校の体育館約二十箇所で開催される。多彩なスポーツ(キッズスポーツ)、アスリートクラブ、その他多種を取り入れ、子供たちが楽しく運動できる場を築く中、チアダンスチームが練習の成果を十二分に発揮して大きく育った例であり、みんなの努力が実り、自信を育てるチームは今後も上位進出を目標とするいきみです。

子供達は、学校が引けると寺子屋に集まりレッスンを重ねておりますが、時々駐車場の混雑を呈することがございます。

お檀家さまには、ご理解賜りますようお願い申し上げます。



四月六日〜八日、
総本山長谷寺への檀参旅行
 三重の多度大社・奈良の薬師寺や西大寺などそしてあまり行つた事のない静かな寺院のすばらしい仏さまやその佇まいに触れる旅となりました。

総本山長谷寺は花の御寺と言われる如く、季節ごとに表情をかもし、常に伽藍の美しさを引き立て見事ですが、今回は山内に咲き乱れる桜の花が美しい時節に実施されました。

バスが到着すると、若い僧侶が迎えて雨跡にしっとり濡れて咲き乱れる桜の風情を楽しみながら石段の回廊を上りつめると、本堂はご本尊のお膝もと(内陣)まで通されて、厳かなる開帳法要が行われました。各家のご先祖供養と家内安全・身体安全等、大勢の若い僧侶の声高らかに唱えられる流経に身も心も浴し、法悦にひたつた後は、ご本尊十二面観世音菩薩の巨大なお御足に触れながら各自が思い思いに祈念を凝らす。本坊でお茶の接待、有難いお話を頂き、記念写真に収めて、旅の目的は「応達成されたのであります。が、それから盛りだくさんの観光スケジュールが展開された次第です。」

「旅の恥は掻き捨て」とやら、何かあっても旅の味、などと、そんな覚悟は空振りとなり皆さん常に品行方正、思えば遥か懐かしや今では終始真面目な熱年の旅でありました。

合掌



▲ 先ずは桑名の「なばなの里」で咲き乱れるペコニアの花に囲まれて



▲ 長谷寺の開帳法要に臨む



▲ 三笠山中腹の旅館にて



▲ 動行おわって記念撮影



▲ 西大寺の大茶盛り

山内ニユース

お蔭さまで、
 本年四月、副住職慈寛の長男尚寛は、大正大学(仏教学部)に入学し、同時に東京護国寺に於いて宗務主催の得度式に臨み、僧名を「尚寛」と改め、通学が開始されております。

親子三代、何かと不束者ではございますが、今後とも何卒宜しくお願いを申し上げます。

合掌



寝釈迦(涅槃像)が完成

釈尊入滅のお姿(沙羅双樹の下で、北頭、西面、右脇を下にして臥したお姿)にて煩悩を断じて絶対的静寂に達した状態を涅槃(寂滅)と申します。

スリランカの友人(ソーマパラー氏)は會て国費留学生として、東京芸術大学で彫刻・美術を学び、祖国では大統領にも信頼の篤い、エリート彫刻家です。今般急に当寺を訪れ、懐かしく親交が再燃、上記涅槃像の彫刻を依頼していただきましたが、此の程完成されたものです。

スリランカの原木マホガニーはセダン科の常緑高木で樹高30mにも達し、材は赤黒色で木目の美しい堅木であり、仏像彫刻には最適。本年は任職の就任40周年ともなる年であり、そろそろ寝釈迦さまにあやかり、静かに過ごせるように・・・と願う次第です。

折から篤志家(匿名希望)さんのご寄付も頂き完成できました。衷心より感謝し御礼を申し上げ、ご報告と致します。

合掌